

平成 27 年度 メイクアップ ラボ プロジェクト メイクアップ分野における中核的専門人材養成のためのプログラム開発と実証



文部科学省

MINISTRY OF EDUCATION,
CULTURE, SPORTS,
SCIENCE AND TECHNOLOGY JAPAN

平成27年度文部科学省委事業

「成長分野等における中核的専門人材養成等の戦略的推進」事業

メイクアップ ラボ プロジェクト

・メイクアップ分野における中核的専門人材養成のためのプログラム開発と実証：地方・企業版および上級編
・代表校：専門学校東京ビジュアルアーツ

●メイクアップ ラボ プロジェクト メイクアップ アドバンス実証講座シラバス

メイクアップ ラボ プロジェクトでは、昨年度のメイクアップ アドバンス講座のカリキュラムの地方版および企業版を展開し、さらなるカリキュラムの普及および実証に取り組めます。地方版および企業版では、地方・企業の特徴に応じ、必要とされる課題ユニットに特化した実証講座(無料)を開催します。メイクアップ アドバンス講座の地方・企業版は、講座を開催する学校・企業を募集し、開催学校・企業の需要に応じたカリキュラム編成による講座になります。

地方学校・企業開催は、開催学校・企業が受講生を決定しますが、定員に空きがある時には、プロジェクト委員会を通じ参加申込できます。開催学校や企業以外に所属している方でもOKです。

●メイクアップ アドバンス講座の地方・企業版での詳細・各学科の簡単なシラバスを示します。

○開講場所：プロジェクトで開講できる地方学校または企業を募集し、決定した場所

○受講対象者：本プロジェクトは産学連携プログラムであり、実証講座の対象者は学校法人の専門学校、短期大学、大学の先生(非常勤講師可)および会社・団体等のメイクアップ関連担当者や会社・団体等に所属するメイクアップアーティストなどです。

○受講料：無料(文部科学省委託研究の実証講座のため受講料は無料です。)

○時間：10:00 より 17:00(昼休憩あり)：開催ばしように異なる場合があります。

○実証講座内容：ステップ毎に内容が異なります(日程及び詳細は次頁のシラバスを参照)

原則：すべてのステップの受講が条件(場所によりステップ 2 までからステップ 6 になります。)

ステップ 1： エアーブラシメイク基礎

ステップ 2： エアーブラシメイク(アート、カバーメイク)

ステップ 3： エアーブラシメイク(ビューティメイク)

ステップ 4： 死化粧

ステップ 5： 特殊メイク(傷、打撲、怪我、ゾンビメイク)

ステップ 6： 特殊メイク(アプライアンス装着)

・エアーブラシ機器、インク、ファンデーション等材料はすべてこちらで用意します。

・自宅での練習や課題等があり、機械をお持ちでない場合は貸し出します(無料)。

○日程：開催校・開催企業により異なります。

・最終的にステップ 1 からステップ 6 を受講することが参加の条件です。

・日程選択は各回に定員がありますので、定員になり次第予約締め切りになります。

○参加申込：別紙参加申込用紙に必要事項を記入の上FAXして下さい。

以下ホームページより参加申込書はダウンロードできます。

○メイクアップ アドバンス実証講座の開催決定状況や定員状況はホームページをご覧ください。

<http://www.tva.ac.jp/airbrushPJT/> の 27 年度のページ

学校開催：高知開催 5 日間、名古屋開催 6 日間、札幌開催 2 日間はすでに決定。

・本プロジェクトの実証講座のとりまとめは委員会参加企業のマリブTEMPTUが行っています。

・詳細、質問は TEL 052-654-2839 (委員会企業マリブTEMPTU：浅野)まで

平成 27 年度 メイクアップ ラボ プロジェクト
メイクアップ分野における中核的専門人材養成のためのプログラム開発と実証

実証講座内容(シラバス):ステップ番号は地方開催によって前後します。

メイクアップ アドバンス 講座では 6 ステップに渡り以下の講座をおこないます。

○エアブラシメイクアップについて

エアブラシの導入のためのプログラムは平成 22 年度基盤的人事育成プログラムによってエアブラシメイクアッププロジェクトとして採択され、プログラム開発および実践的講義を行い、多くの学校に導入されてきました。本プロジェクトは中核的専門人材の養成を目的とするが、多くの教員、現役美容師、メイクアップアーティストは未だに、エアブラシメイクアップについて、知識不足である。また、より理解を深めるために、最初に開発されたベーシックプログラム(ステップ 1)を行い、体系的に理解できるようにする。

2 日目(ステップ 2)以降は、エアブラシとその他新技術の応用とを行い、中核的専門人材のための技術・理論修得を目指す。

ステップ 1: エアブラシメイク基礎

開催日:



・理論面

- 1、エアブラシの特性、構造、分解、組立、掃除等の理解。
エアの流れや構造などを理解し、エアブラシの特性を理解する。
不具合に対処でき、どんな状況でも使用できるようになる
- 2、インク等/ファンデーションの特性
身体や顔に吹付けるため害のないものを使用することを徹底させる。
ファンデーション/インクは成分により発色や用途、掃除液などが異なり、
各々の特性を理解し、使用環境やクオリティを勘案した材料選択の必要性を理解する。
- 3、光の理論や肌のカラー理論の理解。

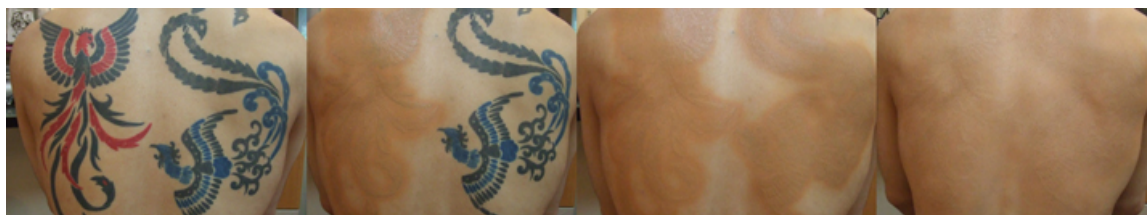


・技術面

- 1、エアブラシ機器の説明と操作
機械のため雑に扱うと故障の原因となるため。分解、組立、掃除等を行う。
- 2、インク、ファンデーションの特性を理解した上で、実際に使用し、違いを確認する。
- 3、吹付け演習:いろいろな技法を学び、演習する。
 - ① ○、□、直線、グラデーションの吹付け練習で基礎的な動作を学ぶ。
 - ② エアブラシでメイク、ボディアート、特殊メイクでの動きをするために必要な練習方法の修得
 - ③ エアブラシ(ハンドピース)掃除。詰まりや凝固を防ぐため毎回のメンテナンス(掃除)が必要。エアブラシの掃除、分解、組立て。
- 4、次回までの課題(提出物あり)
 - ① 基礎動作および吹付けの練習を次回までに修得する。
 - ② 直線の練習を活かしてA4用紙に自身の名前を書いてくる。
 - ③ 課題(A4用紙に○、□、直線、グラデーションの吹付け)を提出。
 - ④ ステンシル用のデザイン(好きなの)を考え、次回までにレースステンシルを製作する。(製作は、練習会会場のTEMPTU代々木店 2Fです。製作時間がない場合はデータを送付してください。)

平成 27 年度 メイクアップ ラボ プロジェクト
メイクアップ分野における中核的専門人材養成のためのプログラム開発と実証
ステップ 2: エアブラシメイク(アート、カバーメイク)

開催日:



・理論面

- 1、エアブラシの特性は、薄膜とグラデーションにある。レイヤーとグラデーションおよびスパッタリングによる画像構成を修得。
- 2、カバーメイク等で必要なニュートライズと肌質の演出について学習する。
- 3、陰影やシェイプによる見え方等について学習する。

・技術面

- 1、グラデーションの演習
自宅演習を経て、エアブラシの特徴であるグラデーションの繊細さを修得
用紙を〇に切り球体を描く、グラデーションを練習することでメイクの陰影技術を修得。
- 2、タトゥーペイント、ボディアートの演習
タトゥーシートやレースステンシルを使用してボディアートを完成させる。ステンシルの構造の理解と、様々な色を利用し、アートの吹付けの感覚を身につける。
- 3、タトゥーカバー演習
ステンシルアートをタトゥーに見立てカバーしていく。実需の多いカバーメイクを修得する。
ニュートライズや肌質演出の理論に基づき演習する。ペイントおよびエアブラシの両方で行う。
- 4、ビューティメイク演習
 - ① チーク・アイシャドウ・アイブロー演習:アイシャドウ用ステンシルを作成し、顔の用紙に吹付け演習。
 - ② ファンデーション、カントア演習:陰影や輪郭によるフェイスの調整と均一塗布の演習。顔の用紙に吹付け演習。
- 5、次回までの課題(提出物あり)
 - ① グラデーション等の吹付けの練習を次回までに修得する。
 - ② タトゥーアートのカラーリング写真提出。
 - ③ タトゥーカバーを練習する。ビフォー・アフター写真の提出。
 - ④ 顔の用紙に、メイクイメージ画を作成、提出する。
テーマごとに作成する(次回演習でイメージ画をもとにメイクを行うため)。

平成 27 年度 メイクアップ ラボ プロジェクト
メイクアップ分野における中核的専門人材養成のためのプログラム開発と実証

ステップ 3: エアーブラシメイク(ビューティメイク)

開催日:、



・理論面

- 1、メイクアップ理論に従ってエアーブラシの特性を理解しながらエアーブラシメイクアップ手順を学ぶ。
- 2、修正やタッチアップについて学ぶ。
- 3、エアーブラシとハンドアプライの特性を理解し、どのような施術が良いかを学ぶ。

・技術面

- 1、相モデルでの演習
相モデルでフルメイクを行う。交互に数回行う。写真取り。
前回課題のイメージ画をもとにメイクする。
相手方のイメージ画をもとにメイクする(他人の支持に従ってメイクすることが重要なため、自らのイメージだけでなく、他のイメージ画でのメイクを練習する。)
- 2、ボディーペインティングのデモンストレーション
実証講座講師による、簡単なボディーペインティングのデモをおこなう。
- 3、次回までの課題(提出物あり)
ビューティやアートの作品を写真で提出。

平成 27 年度 メイクアップ ラボ プロジェクト メイクアップ分野における中核的専門人材養成のためのプログラム開発と実証

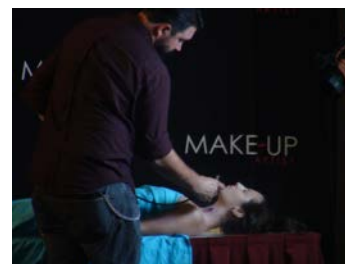
○死化粧について

生体反応のない死体への化粧は、通常のメイクとは全く異なる対応が必要である。

特に死後に生体反応がないために、肌は変色をおこし、化粧のためのベースの製作が必要となる。しかし、近年エアブラシ技術の発達によって、ベース製作の必要なく、化粧することができるようになった。また、エアブラシの普及が遅れているために、従来のハンドアプライでの死化粧も多く行われているが、多くのメイクさんは死化粧を施術したことが無く、理論修得が必要である。ハンドアプライにおいては、通常のメイクと技術的な違いはあまりないが、生体と異なり、肌の反発や劣化(腐敗を含む)などで、物理的にも変性しており、その対処が必要である。震災等では、遺体の損傷や腐敗等も激しく、触ることもできないこともあった。新技術であるエアブラシは遺体にさわることなく、薄膜できれいにカバーすることができ対応することができる。また、衛生面においても安全である。また、近年、核家族化と少子化によって、葬儀が質素に行われる傾向にあり、死化粧に係るコスト低減が求められている。そのため、高コストの専門死化粧師によるのではなく、ビューティ系メイクさんや葬儀社の社員による死化粧への対応が求められている。

ステップ 4: 死化粧

開催日:



・理論面

- 1、生体との違い、ご遺体の変化を理論的に把握
(体温の低下～死後硬直～死斑～顔色の変化～皮膚や粘膜の乾燥)
- 2、状況観察と感染防御の為の処置と化粧前の準備。
(感染防御対策)

・技術面

- 1、ハンドアプライによる死化粧の説明。
- 2、エアブラシによる死化粧の説明
 - ① うっ血や変色等の軽度修復方法
 - ② ご遺体状況別により必要機材の有用性及び材料特性の説明
 - ③ 生体メイクと異なり、衛生面の管理が重要な為生体との違いを習得
- 3、相モデルでの演習
状況をイメージしてのメイクアップ(通常・状況変化別によるメイク手法)
* タトゥカバーなどのカバーメイクと技法が似ている為、カバーメイクの練習になる。
- 4、次回までの課題(提出物あり)
自宅練習。カバーメイクと技法が似ているため、カバーメイクの練習にもなる。

平成 27 年度 メイクアップ ラボ プロジェクト
メイクアップ分野における中核的専門人材養成のためのプログラム開発と実証

○特殊メイクについて

特殊メイクは分野が広く、特殊メイクだけで 1 分野を形成するが、メイク現場において、ビューティだけでなく、簡単なアグリーメイクを要求されることが多く、特殊メイク導入編として、最低限の知識と技術修得を目的とする。造形等を必要とするより高度なFXメイクは来年度に行う。

ステップ 5: 特殊メイク(傷、打撲、怪我、ゾンビメイク)

開催日:



・理論面

- 1、怪我や傷、打撲などの分類と時系列変化
FXメイクの基礎である、切傷、擦り傷、はれ、打撲、痣などを演出するにあたり、それらの種類と時間経過による変化について学ぶ。
- 2、血糊の分類
- 3、材料の特性と選択
ワックス、ラテックス、ゼラチン、シリコーンゴムでの傷等の演出のための材料適性。怪我、傷等の状況により、撮影環境などにより、どの材料を使用するか等の材料選択のための材料特性の知識修得。
- 4、カラーリングや陰影を利用した効果演出の学習。

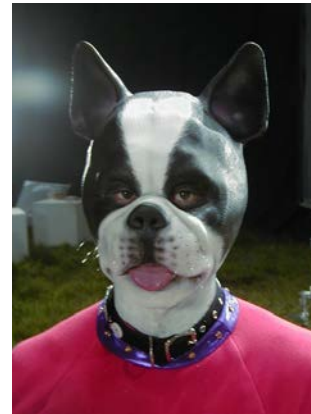
・技術面

- 1、ペイントでの痣や擦り傷(2次元)
ペイント(筆やスポンジ)での痣や傷の演習。
- 2、モデリング材料を使用した傷等(3次元)
ワックス、ラテックス、ゼラチン、シリコーン等のモデリング材料を使用した傷等の演習。基礎的な使い方から応用編までモデリング材を変更しながら修得。
- 3、ゾンビペイント
ペイント、エアブラシなどを駆使し、2次元および3次元の技法を組み合わせ、ゾンビメイクを演習する。
- 4、次回までの課題(提出物あり)
自宅練習。ペイントやモデリング材料を使用した作品提出(写真)。

平成 27 年度 メイクアップ ラボ プロジェクト
メイクアップ分野における中核的専門人材養成のためのプログラム開発と実証

ステップ 6: 特殊メイク(アプライアンス装着)

開催日:



・理論面

- 1、アプライアンス装着における必要な理論の修得。動きに合わせた接着部位の選択や材料選択等。
- 2、造形等の過程理解。造形は特にクリエイティブな分野であり、熟練を必要とするために本プロジェクトでは次年度の課題となっている。しかし、中核的専門人材養成ではその製造過程を理解し、説明できる必要がある。そのため、本プロジェクトでは、一連の製作工程を紹介する。汎用アプライアンス製作から個人の型取りから行うアプライアンス製作を紹介する。実演ではなく、使用品等による説明による知識修得。

・技術面

1、デモンストレーション

実証講座講師によるアプライアンス装着デモンストレーション(生徒は見るだけなので、比較的中級や上級のを付ける)。FXメイクを理解するうえで、高度な技術を垣間見ることができ、知見を高める。

2、簡単なアプライアンス装着:相モデルで行う。

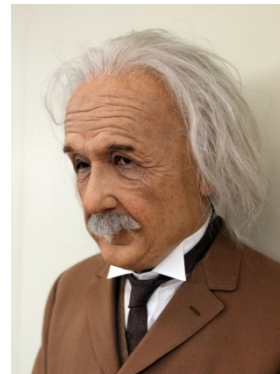
アプライアンス装着は特にリアリティ追求の必要があり、接着部位の選択やエッジ処理や色合わせなど修得。ペイントやエアブラシでカラーリングする。

アプライアンスはプロジェクトで用意(受講生用は簡単な小さいもの)。

3、課題(提出物あり)

自宅練習。テーマ自由で作品提出(写真)。

最終日のために、次回講座がないので、でき次第提出してください。



写真提供(委員会参加企業 MUD・(株)メイクアップディメンションズ)